

令和4年9月29日

令和4年9月 記者懇談会 冒頭挨拶

○本部長の榎本です。本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

○今月8日に行いました、「民間大型船とのえい航救助訓練」におきましては、洋上での長時間の拘束にもかかわらず、乗船取材いただき、また、乗船いただけなかった方も含めて、各社とも大きく報道していただきありがとうございます。

○前回の記者懇談会で、えい航救助はなかなか報道されない傾向にあるため、国民の皆さまも大型船の航行不能のリスク、海上保安庁の巡視船によるえい航救助活動に意義ついて、十分に理解されていないのではないかと申し上げましたが、この度の報道により、当庁の重要な活動の一端であるえい航救助について国民の皆さまの理解が深まったのではない

いかと考えています。今回の訓練の結果をしっかりと検証し、今後の同種事案の発生に備えてまいります。

○また、今月は、過去に例がないほど危険とされた台風14号が九州から日本海側を通過し、当管区におきましても管内の全ての部署が暴風圏にかかり、9月17日から20日の4日間にわたり、24時間体制で職員が出勤、巡視船が出港し海難や災害に備える特別な体制で対応にあたりました。私の過去の経験でもこれほど長期にわたり、こうした特別な体制が敷かれるのは記憶にありません。

○港内に停泊する船舶に対する港外への避難や係留強化の勧告、沿岸レジャー活動の注意喚起など、台風に対する事前の備えが功を奏し、期間中に台風による目立った事故は発生しませんでした。期間中は管内に日本船35隻、外国船6隻の合計41隻船舶が台風を避けるために錨泊しており、これらの走錨防止のための監視を継続して実施したところです。

○台風が接近する場合の事前の備えとして、海上保安庁で

は、港則法に基づき、港内に係留する船舶に対して、港外への避難や係留強化などの勧告や命令を出すことにしていますが、本日は、台風の接近に伴う各港の対応について、交通部から後ほど説明させていただきます。

○また、来月15日は、本部庁舎の前面の、舞鶴西港第3ふ頭において、海で活動する関係機関が中心となり、各機関の業務を国民の皆さんに広く知っていただくためのイベント、「ブルーフESTA」が開催されます。このイベントは令和元年に第一回目が開催され、昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響からオンライン開催としていましたが、3年ぶりに対面での開催とするものです。このところ舞鶴市内もコロナの感染者数が減少傾向にありますが、コロナ対策をしっかりと講じた上で、多くの方にご観覧いただきたいと思いますと考えております。本件については既に広報をさせていただいていますが、後ほど総務部から改めて説明させていただきます。

○本日は、このほか、発表項目として、交通部から、これからのシーズンに事故が増加する傾向のある釣り中の事故防止

について、また、少し先のイベントになりますが、11月1日の灯台記念日に合わせた企画展や灯台の一般公開のお知らせをさせていただきます。

○私からは以上になります。本日もよろしくお願いします。